

感薬第 1195 号
令和 7 年 2 月 21 日

新潟県医師会長 様
郡市医師会長 様

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課長

HPVワクチンのキャッチアップ接種等の経過措置に係る周知啓発について

日頃、本県の予防接種行政に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

HPVワクチンのキャッチアップ接種等について、国は、令和 6 年夏以降の大幅な接種需要の増加により、接種を希望しても受けられなかった方がいる状況等を踏まえ、令和 7 年 3 月末までに接種を開始した方が、全 3 回の接種を公費で完了できるように 1 年間の経過措置を設けたところです。

これを受け、県では、新潟県医師会と協働し、周知啓発の取組を行うこととし、このたび周知資材（動画、チラシ）を作成しました。

周知資材については、下記のとおり無料でダウンロードいただけますので、対象者や保護者等への啓発のために、ご活用くださるようお願いいたします。

また、郡市医師会におかれましては、周知資材の活用を検討いただけるよう、貴会会員に周知くださるようお願いいたします。

記

1 周知資材（動画、チラシ）について

○ 動画とチラシについては、県ホームページ上に公開しています。
(<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kanyaku/1356835215990.html>)



○ 動画については、下記からダウンロード可能です。
(<https://drive.google.com/file/d/1Gmii19JqXqfMSQ3nWsQaToo0hQ6CtmUf/view?usp=sharing>)



2 啓発資材使用の際の注意事項について

HPVワクチン又は子宮頸がん検診の理解促進及び普及啓発を目的とした活動にご使用ください。

目的以外の用途に供することはご遠慮願います。

担当：感染症対策・薬務課 横田、目黒
TEL：025-280-5200
Mail：ngt040330@pref.niigata.lg.jp

“HPVワクチン”キャッチアップ接種等のお知らせ

1年間の経過措置が設けられます

2024年夏以降の大幅な接種需要の増加により、HPVワクチンの接種を希望しても受けられなかった方がいる状況等を踏まえ、2025年3月末までに接種を開始した方が、**全3回の接種を公費で完了できるように1年間の経過措置**が設けられます。

対象者 次の2つの条件を満たす方

- 1 **1997年4月2日から2009年4月1日**生まれの女性
※キャッチアップ接種対象者と2024年度が定期接種最終年度の方
- 2 2022年4月から2025年3月末までにHPVワクチンを**1回以上接種し、接種が完了していない方**

2025年度も**2、3回目の接種を無料(公費)**で受けられます



2025年3月までに1回目の接種をしていれば
無料(公費)で全3回の接種を完了することが可能です



1回も接種されていない方は、3月末までに、接種を開始することをご検討ください。



HPVワクチンの効果と副反応

HPVワクチンの効果

HPVワクチンには、3種類のワクチンがありますが、9価ワクチン(シルガード®9)では、**子宮頸がんの原因の80~90%を防ぎます。**



HPVワクチンの接種により、感染予防効果を示す抗体は少なくとも**12年維持される可能性**があることが、わかっています。



HPVワクチンの副反応

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。



まれですが、重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)**※**が起こることがあります。

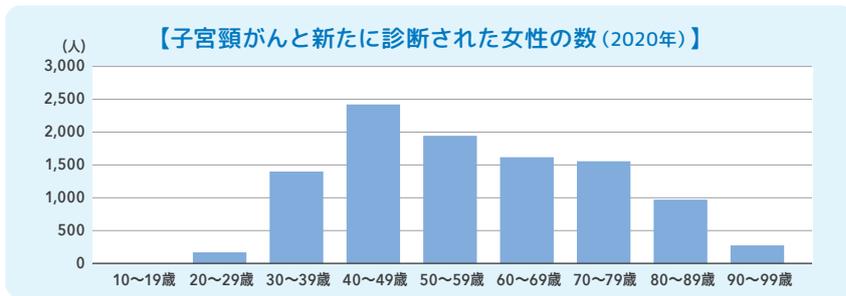
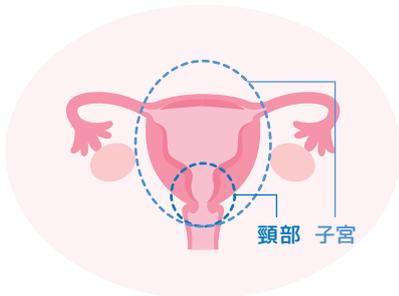
※重いアレルギー症状:呼吸困難やじんましん等(アナフィラキシー)
※神経系の症状:手足の力が入りにくい(ギラン・バレー症候群)、頭痛・嘔吐・意識低下(急性散在性脳脊髄炎(ADEM))等



接種後に健康不安があるときは、まずは接種した医療機関やかかりつけ医にご相談ください。

子宮頸がんについて

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。
子宮頸がんは、**若い世代の女性のがんの中で多くを占めるがん**です。
日本では毎年、約1万人の女性がかかり、毎年、約3,000人の女性が亡くなっています。
患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう
(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。



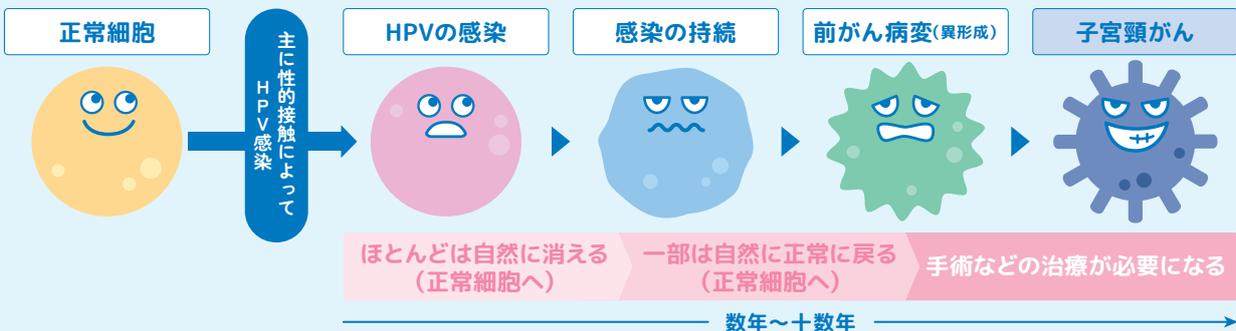
出典: 国立研究開発法人国立がん研究センター(がん種別統計情報)より作成

子宮頸がんにかかる仕組み

子宮頸がんのほとんどが**ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染**で生じます。
HPVには200種類以上のタイプ(遺伝子型)があり、
子宮頸がんの原因となるタイプが少なくとも15種類あることがわかっています。
HPVに感染しても、すぐにがんになるわけではなく、いくつかの段階があります。



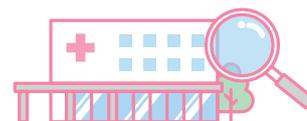
【HPV感染からの子宮頸がんの進行】



HPVは、女性の多くが**“一生に一度は感染する”**といわれるウイルスで、感染しても、ほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。
現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、**感染を防ぐことががんにならないために重要**です。

HPVワクチンと子宮頸がん検診

子宮頸がんで苦しまないために、私たちができることは、
HPVワクチンの接種と子宮頸がん検診の受診の2つです。



point
1

HPVワクチンで
HPVの感染を予防



+

point
2

子宮頸がん検診で
がんを早く見つけて治療



ワクチンを接種をしても、していなくても、**20歳になったら、定期的に子宮頸がん検診**を受けましょう。

